

種名	<u>カ マ ツ カ</u> <u>Pseudogobio esocinus</u> 
分類	コイ科カマツカ亜科カマツカ属
俗称	スナホリ・スナムグリ(日本各地)、ダンギボ(北陸・関西)、カワギス(北陸、関西、九州)
形態的な特徴	川の底の方を移動しながらエサをとるので、一般的な魚のように平たくなく、筒型をしていて、口は下向きについている。口ひげが一对あり、吻が長く伸びる。体色は背景である砂礫に似て、淡褐色地で全体に黒点が散らばる。繁殖期のオスには頭部や胸鰭に追星が現れる。全長は 20cm ほどになる。
分布	青森・秋田両県を除く本州と九州、徳島、四国の吉野川が天然分布だが現在では四国のほぼ全県と秋田県でも繁殖している。
繁殖行動	産卵期は3～6月で、夜間に川の浅くて流れの緩やかな場所で産卵が行われ、卵は砂礫底にばらまかれる。2～3年で成熟する。
生息場所	川の中・下流域や湖の沿岸の砂底部あるいは砂礫底部に好んで生息する。河川中流域の瀬でじっとしていることもあり、砂底に紛れて発見しにくい。
食性	エサは底生動物を主食とする雑食性で、吻を突出させて砂と一緒にエサを吸い込み砂だけを鰓から出す。驚くと砂に潜る。
生息環境への配慮事項	本種の生息には水域の底質が重要になる。そのため河川改修などにより、コンクリート護岸になることや、河川の流れが変わり砂礫底が砂泥底に変わるなどすると生息には適さない水域となる。本種を保全するためには底質が重要になるが、水中の溶存酸素不足にも弱いので、河川の瀬のようなところが本種の生息には望ましい。また、産卵のために違う場所へ移動することもないので、普段本種が生息する場所を保全すればよい。しかし、川の流れが変わったり、川が汚れてそこに泥がたまってしまうようなことになれば、本種はすぐに姿を消してしまうため現在の環境を維持する努力が必要である。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	